

あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM '89 9月号

特別展講演会 “鳥の歌・鳥の声”から

野鳥の声を聞いたとき

特別展“野鳥入門”にちなんだ講演会は、8月20日、100人を超える参加者を前に、北海道から鹿児島に至る野鳥たちの、明るく爽やかなさえずりを響かせて終了しました。蒲谷氏は少年のような目差しをお持ちの方。「年の3分の1は街にいるが、あとは山野で野鳥を追う」という暮らし振りの由。日本では只一人の、野鳥の声の録音家だそうです。これを読みくださる皆さんには、録音テープをお聞かせするわけにはゆきませんので、「森の野鳥(由井正敏著)」の助けを借りて、庭先や林や森で野鳥の声を聞いたとき、手引きになるように書いてみたいと思います。

文中のカットも森の野鳥からの借用です。

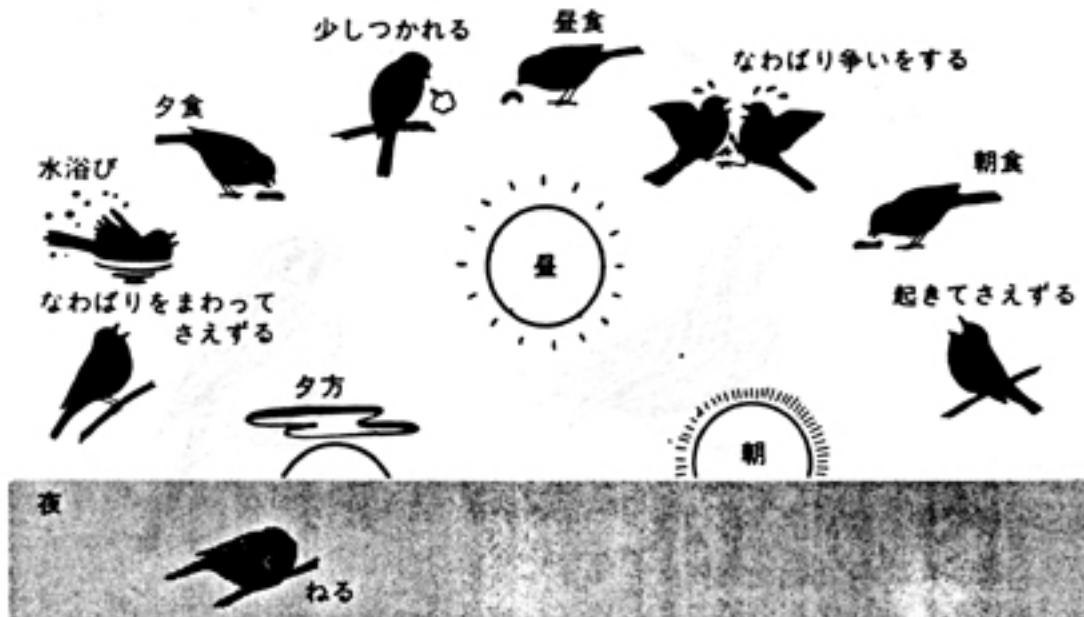


野鳥には2種類のきわだった鳴き方があります。“さえずり”と“地鳴き”です。

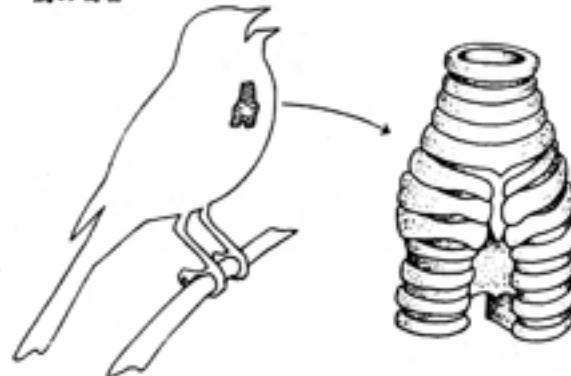
たとえばうぐいすのホーホケキョのような鳴き方はさえずりです。初夏の森から聞えてくるカッコウは、鳴き声がそのまま鳥の名になりました。キジバトの“デデボッポー”、キビタキの“ポッピーピーピリリッ”、シジュウカラの“ツビツビー”。

私達だって唄いますが、どうも野鳥にはかないません。あの声はどこから出てくるのでしょうか。蒲谷氏によれば、鳥はほかの動物と違って、のど

野鳥の1日



鳥の鳴管



の所に鳴管（めいかん）という器官を持っているのだそうです。鳴くための特別の器官から、あのかまざまな美しい声が出ているのでした。

さて、このさえずりを知つていれば、なに鳥なのか判ります。但し聞く人の耳によって、少しずつ感じ方が違いますから、すぐには理解して貰えないかも知れませんけれど。なき声は、普通片仮名で表します。アクセント記号をつけておくのも良い方法です。“聞きなし”といって、野鳥のなき声を、誰れにもわかり易い言葉におきかえたものを紹介しましょう。

めじろ：長兵衛中兵衛、長中兵衛

ほおじろ：一筆啓上つかまつり候

さっぽろラーメン、味噌ラーメン

せんだいむしくい：焼酎一杯グレー

三光鳥：月・日・星、ホイホイホイ

イカル：お菊24、4×6=24（シロク24）

ツバメ：土喰って虫喰ってシブーイ

こじゅうけい：母アちゃんこわい

メボソムシクイ：ゼニトリ銭取り

フクロウ：ボロ着て奉公

これらは自然観察会の方達から伺いました。一筆啓上から札幌らーめんに移ったのは戦後派の耳でしょうか。焼酎一杯グリーンなんて鳴かれたらお父さんだって思わずニヤリとするでしょう。掛算してみたり怖いよーといつてみたり、なかなかです！ これなら覚えられますね。

“さえずり”は、おもにオスが行います。役割はメスを呼びよせることと、なわばりを張る時の宣言だと言われています。面白いことにご夫婦の場合、オスは余り大声でさえずりません。自分のなわ張りがきまついて、隣り近所と顔見知りだし、奥さんもあれば、大声でわめく必要はないわけです。上を向いて声を限りにわめきたてるのは新入りの独身者だそうです。

シジュウカラはエサ探しをしながら、お互に「ピッピッ」とか「ジュクジュク」と鳴きかわします。ホーホケキョのうぐいすも春が終ると「チャッチャッ」となります。これが地鳴きです。お互いのコミュニケーション呼び合ったり警戒したり、エサをねだったりは、鳥によっては15種類もの違った声があるそうです。

口を開けば「お勉強しなさい」という人、メシ・フロ・ネルしか言わない人、エッウソ、ホントーしか言えない人、この際です。野鳥たちに習ってレパートリーを広げてみてください。きっと良いことがありますよ。

さあ、次の休日にはズック靴をはいて、皆で山に行きましょう。小さな秋の気配の中で、ヒーヨ、ヒーヨと聞こえて来たら、それはヒヨ鳥が鳴っているのです。

（和田）

独身のホオジロのさえずり方▶



結婚しているホオジロのさえずり方▶



(山岸1978)

プラネタリウム

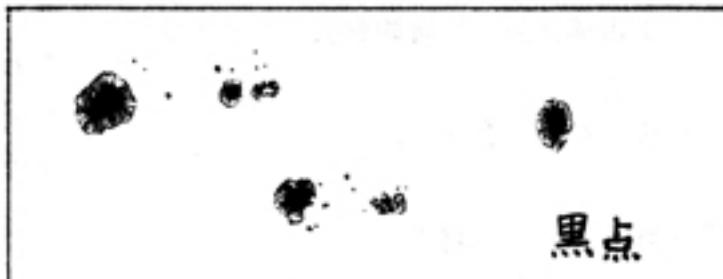
太陽・母なる星(9月9日~11月5日)

太陽のめぐみ

太陽は地球上の生物にとって深い関係を持っています。太陽の光と熱は地球に気候の変化をもたらし、動物や植物を育てます。人間は1日をお昼と夜に分け、時間の意識をつくりました。太陽は多くの民族によって神としてあがめられ、神話が作されました。今回のプラネタリウムは科学的な眼でその活動が活発になってきた太陽を見てみましょう。

黒点

太陽は、大きなガスの球です。私たちが濃いサングラスなどを透かして見たり、夕日が沈むときに赤く見えるあるいは球を光球といいます。その縁は月のようにはくっきりしておらず、なんとなく縁が暗くなっています。写真を見るとそのようすが良くわかります。その光球には 黒いしみのような 黒点が見えています。博物館では黒点の観測をしていますが、その際に写した写真には黒く見える暗部と薄い半暗部からなっているのがわかります。黒点の数の変化には11年の周期があり、相対数の多いときを極大期、少ないときを極小期といいます。次の極大期は 1990年から1991年にかけてになるだろうと予想されています。



今年三月のできごと

今年3月の新聞見出しにこんな事が出ていました。「最大級の太陽フレア」「最大級の磁気嵐発生」。このとき大きな黒点群が現れ、その近くで最大級のフレアが発生したのでした。

フレアは太陽の大気中で起こる現象で、フレアが起こると黒点の近くが急に明るくなり、激しい爆発が起こります。その後數十分から一時間で元に戻りますが、このときに高温のプラズマの流れが宇宙空間に飛び出します。プラズマが1~2日後に地球に達すると地球磁場に影響を与えて磁気嵐を起こしたり、オーロラが見えたりするのです。

プラズマは地球の磁場をゆさぶり、地磁気の成分に変化をもたらし、方位磁石が狂ったりします。これを磁気嵐といいます。

また、この時期、普段は北極や南極近くの高緯度地方で見ているオーロラが、低緯度でも見えることがあります。これから太陽活動によっては、日本でも赤いオーロラを見ることができるかも知れません。

太陽の活動は私たちに計り知れない影響を与えているのです。 (鷹)

9月

- 9 土 古文書講読会／土曜観察会／石仏を調べる会／ナチュラリスト講座
 16 土 平塚の空襲と戦災を記録する会例会
 みんなで調べよう高麗山のセミ（最終回）
 17 日 相模川を歩く会
 30 土 土曜観察会（自然の新聞作り）

・寄贈品コーナー“竹と生活”展

9月21日～10月29日

・プラネタリウム“太陽、母なる星”

9月9日～11月5日

10月

- 1 日 体験学習“巣箱を作ろう”
 14 土 ナチュラリスト講座／古文書講読会／土曜観察会／石仏を調べる会
 15 日 自然観察会“鍋割山ブナ林”
 21 土 天体観察会“暗い天体を探すには”
 21 土 平塚の空襲と戦災を記録する会例会
 28 土 古文書講読会／土曜観察会／石仏を調べる会
 29 日 相模川を歩く会まとめ
 •特別展“平塚の寺院と仏像”

10月17日～11月12日

●体験学習“巣箱を作ろう”

シジュウカラ用の巣箱を作り、高麗山にかけに行きます。小学校3年生以下は、保護者同伴でお願いします。

日時：10月1日（日）9時半～16時

内容：午前／博物館で巣箱作り

午後／高麗山で巣箱かけ

申込み：9月25日までに往復ハガキで。希望者多数の時は抽選で20名。

※ 行事案内 ※

●自然観察会“丹沢のブナ林を訪ねて”

丹沢の尾根に広がるブナの原生林を訪ねて、登山的な観察会を行います。秋の森の美しさを楽しめるでしょう。

日時：10月15日（日）8時～17時
 （雨天中止）

コース：秦野市大倉一大倉尾根—鍋割山稜—二股一大倉（徒步7時間／健脚向き）

申込み：9月30日までに往復ハガキで。希望者多数の時は、抽選で30名。

・投影話題“太陽・母なる星”

（9月9日～11月5日）

太陽の活動は、人間や地球上の生命の生活に、深いかかわりを持っています。太陽からやってくる光と熱エネルギーは、長い年月にわたり地球を温め、昼と夜の区別を作り、生物を育て養ってきました。人の歴史も文化も文明も、太陽と深くかかわっています。その太陽は今年、活動の極大期を迎えており、地球にも少なからぬ影響を及ぼす太陽の活動を、今年の3月の出来事を追いかながら、見てみましょう。

利 用 案 内

・投影開始時刻（各10分前に開場します。）

曜 日	1 回 目	2 回 目
火曜日	学校専用	
水・木曜日	学校・団体専用	
土曜日	団体専用	14:00
日曜日	11:00	14:00
夏休み中等の水木土曜日	11:00 〔団体予約優先〕	14:00

・観覧券 1人100円 当日9時より発売

Vol.13 No.6 通巻157号 印刷 平塚市総務部総務課文書係 ○3500

あなたと博物館

発行 平塚市博物館 〒254 平塚市浅間町12-41 Tel. 33-5111